

- 1 派遣期日 平成27年6月29日(月)～6月29日(月)
- 2 研修先 横浜市立白幡小学校
〒221-0075 神奈川県横浜市神奈川区白幡上町11-1
<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/shirahata/>
- 3 研修内容

- ・11月14日の研究発表会「21世紀グローバル社会に必要な豊かに学び合う力の育成～アクティブ・ラーニングの能力を育成し、活用するカリキュラムの開発～」に向けた校内研修(研究授業と講師講話・協議)を参観

(1) 校内環境について

- ①各階の色を統一し学年の学びの様子が見てわかるような工夫。
- ②「学年コーナー」「読書コーナー」「教科コーナー」などのコーナーを充実。
- ③系統が一目でわかるような工夫。
 - ・踊り場にはラーニングスキルの掲示物。各学年で学んできたスキルがよくわかり、これまで学んできたこととこれから学ぶことが児童に理解しやすくなっている。児童のノートやワークシートなどの資料も豊富であり、それぞれが大切に扱われていることがわかる。
- ④課題解決型の家庭学習ノート
 - ・基本的に「考える」ことこそ学校の授業で行う。そのため「ドリル」的な練習は家で行う。しかし、調べたり、まとめたり、自分で問題を作って解いたりするなどの内容の濃い家庭学習である。

『「メモ書き名人」になろう』では、学年が上がるにつれてメモの仕方がより上達し、力がついていく様子が見られる。児童の実際に書いたメモが掲示されている。 →



←低学年国語科の既習事項の掲示物。教材文の読みをもとに、資料を集め、考えを深めて、書く活動へとつながっていく課程が一目でわかる。

(2) 授業参観・指導案・ワークシートについて

- ① 課題解決型学習の単元計画の立て方
- ② 問題解決に向かう協働学習のさせ方
 - ・ 児童による司会や板
 - ・ 学習形態
- ③ 身に付いた能力のメタ認知のさせ方や生かし方
- ④ 学習過程や身に付いた能力がわかる掲示物
- ⑤ 思考操作・言語操作を取り入れたワークシート

単元の学習中は、関連する以前学んだことをまとめた掲示物を掲示。並行して現在学んでいる内容を掲示物としてまとめていく。

5 アクティブラーニングの能力を育成するために

(1) 単元を課題解決的な過程にして、子ども同士の「やりとり」を活性化させる

○単元を課題解決的な過程にする

「1分間の『新聞スピーチ』の活動を通して、話す力を高める」「話す力は、立つ」ということを児童自身が自覚できるようにする。

○言語活動のモデルを提示し、活動の見通しをもてるようにする

「1分間の新聞スピーチ」のモデルを指導者が作成し、活動の見通しをもてる

○グループワークの目的と視点を明確にする

グループワークの目的と視点を明確にすることで、協働的に課題を解決できる「スピーチのこつ」をまとめてチェックリストを作成し、そのリストを活用しながら「スピーチのこつ」を意識しているかを相互評価し、高め合えるようにする。

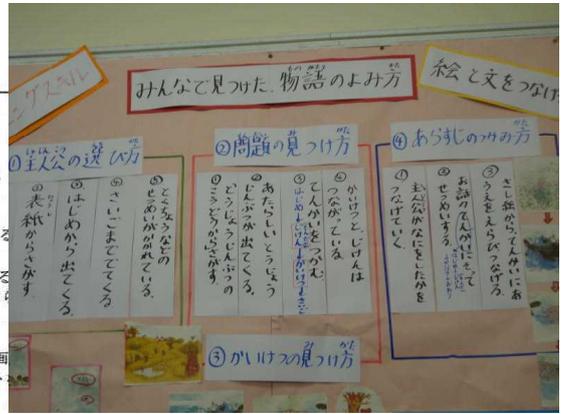
○グループワークの役割分担を決め、グループワークツールを活用する

「司会」「記録」「タイムキーパー」「報告」を決め、役割を自覚しながら計画できるようにする。タブレットやミニホワイトボード、グループワーク用のシート「やりとり」で話し合われることを可視化しながら課題解決を図れるようにする。

(2) ラーニングスキルを活用するとともに、一単位時間の思考操作を明確にする

○見通しと振り返りを単元と一単位時間に位置付け、身に付けたい力・身に付いた力のメタ認知を図る

見通しをもつ時間と振り返りの時間を、単元と一単位時間に位置付け、どんな活動でどんな力を身に付け、実際に身に付いたのかを自覚できるようにする。特に振り返りは、身に付けた知識・技能と学び方考え方を



(指導案より抜粋)

(指導案) 単元計画の前に「アクティブラーニングの能力を育成するために」の項を設け、何をどのように指導していくのか明確にする。

(3) 井上一郎先生（京都女子大学教授）の指導・講話

① アクティブ・ラーニングとは何か。その捉え方

・ 汎用的能力をつける。各教科を通して基本となる読解力をつける（国語科だけではない）必要不可欠なのは、主体的・協働的・能動的であること。

② 課題解決型学習で気をつけたいこと

・ 教師がまず知識を十分に持たなければならない。多領域の論文・本を速読・精読。

・ 自力解決で意識させること

……子ども自ら解決する課題を見つけているか。

めあて・内容・方法・手順を意識させることが必要

・ 授業の「はじめ」・「なか」・「おわり」それぞれで指導者が意識すべきこと

……「はじめ」では、学習の見通しと理由を一人一人が言えるようにする。「振り返り」では、習得したことがわかり、次の課題を見つげられることが大切。

・ 指導内容をしぼる。盛り込みすぎは良くない。

……子どもは本当にそのことをやりたいと思っているのか。うまくいかなかったことを子ども自身が見つけているか。

・ 既習事項を確認してから学習を進める。

・ 「考える」ことこそ学校の授業で。だからこそ「やりとり」が大切である。指導案では展開部の「やりとり」の部分を細かく丁寧に活動の様子を予想して書く。そのために「発問」を考える。「発問」が練られていないから「やりとり」がうまくいかない。ワークシートの発問を大事にし、汎用性のある発問をつくる。

4 感想

すばらしい学校であった。教師が「目指す学校像・生徒像」を同じくし、それに向かって一丸となって教育活動を展開しているということが感じられた。掲示物一つとっても、全て教師の意図があり、つながりがあり、「学校」という場所全てを無駄にしている所がないと思った。アクティブ・ラーニングとは何か、どのように授業を作っていく、ワークシートを作っていくらよいか井上先生の講話と授業参観から、まだほんの一部ではあるが理解することができたと思う。自分の授業でぜひ真似して実践し、アクティブ・ラーニングについて勉強していきたい。